

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號三第 卷三十四第

行發日一月九年一十和昭

論叢

不動産取得税に就きて……………法學博士神戸正雄

金融の實質的及び表見的の緩漫と逼迫……………經濟學博士小島昌太郎

漁業組合制度論……………經濟學博士蜷川虎三

時論

電氣官營に就て……………經濟學博士作田莊一

家屋税移管問題……………經濟學博士沙見三郎

研究

ヒルデブランドに於ける國民經濟學の課題……………經濟學士白杉庄一郎

獨逸大銀行と工業の集中運動……………經濟學士田杉競

講演

國際資源の再分配問題……………文學士高原操

說苑

獨逸國新電力政策に就いて……………經濟學士大塚一朗

附錄

新著外國經濟雜誌主要論題

(裝轉載)

講演

國際資源の再分配問題

— 昭和十一年五月三十日京都帝國大學經濟學會大會における講演 —

高 原 操

私は學者でもありません、それから經濟的行爲をやつて居るものでもなく、經濟學會に出席すべき資格はないと思つてゐますが、幸か不幸か今より三十一年前、日露戦争のあつた頃です、此京都帝國大學の此邊を學生としてうろついて居つた人間であるが故に、講演は拙くつても拙くなくつても、一應諸君の方でうまく聽いてやつた上で、矢張り自分等の學友のうちには斯んなものも居るかなアといふ印象を残して、仕舞になつたら通常禮式に準じ拍手喝采を送つて別れさして頂きたい。これだけ申上げて、——さて私は理窟を述べるのでなく、現下の國際的情勢に就て、政治上のことにも觸れるかも知れませぬが、一體現今の政治上の紛亂はそれは多く經濟上の問題が中に潜んでゐて起るものと思つてゐる、隨つて外交工作といふが如きも、これを側面より眺むれば其『國民の利益』に關することであり、近時最も緊要なりといはれる多種の外交的工作、國際的政治紛亂の結ばれて解さるも、煎詰めれば各國々々の代表者が、各々其國のナショナル・インテレストの主張に融合點を見出し能はぬ爲だと信ずるのであります。……是が私の最初の言葉であり且つ最後の結論になるのであります。……さうし

て其間暫くあちらに外れ、こちらに脱線し、世界全體に跨る現下の情勢を申上げて、此『資源の再分配問題』を皆さんに提供して、之に對する私の意見を述べてみたいと存じます。もしその意見が間違つて居つたら御訂正を願ひたい。

突然でありましたから斯う云ふ題を、本庄先生に自分で書いて差上げたから私の罪だが、是は文句をなさない實は『資源の國際的再分配問題』と書いた方がよかつたと、後で思つたが、訂正が出来なかつたから此儘になつて居ります。——本問題は理論としては古くからある問題だが、政治家の現實論としては爾く舊い問題でなく比較的新しい問題であります。ところが今日はまたカレント・トピックスになつたんだから、眼前の問題として諸君に此問題を聽いて頂いて、別に損にもなるまいかと思ふ。

カレント・トピックスとしては、昨今の新聞紙の第一面を賑はして居るオーストラリヤの關稅引上げ、之に對する日本の報復手段として、この六月十日に通商擁護權の發動、斯う云ふことになるさうですから、此問題と聯關して本日はカレント・トピックスとして取扱ふことも亦當然でないかと思ひます、即ち日本は資源中の重要なるものに就て、殆ど皆無と云つてよい、礦物に就て、棉花に就て、昨今の大問題である羊毛に就て、悉く之を外國より輸入する、此日本では殆んど全部を外國から輸入する資源は、どこがそれでは持つて居るかと云ふと、大雜把なことを云ふと、矢張りイギリス、アメリカ、フランス、ロシア等、自分の廣大な本國または所屬領土を有してゐて、それに有りあまるほどの資源を持ち、さうして本國にも所屬領土にも人口の極めて稀薄なる、近頃流行の語で云へば、充足せる國、物持ちの國、是等の人が疾くに占めて仕舞つてゐる。さうして之に對する物持たぬ國、充足せざる國、即ち不満足の國と云ふのが、喘ぎ喘ぎ多年のあいだ苦しんで來た。が、とう／＼最近では暴ん坊が歐羅巴に二人程現はれた。ヒットラー（本春三月七日、ロカルノ條約破棄宣言、ライン非武装地帯への侵

略)とムソリーニー(昨秋からのエチオピア進撃、本年五月五日のエ國合併宣言)が即ちそれである。日本も其の物持たぬ國、不満足の國である。而して歐羅巴に於てはドイツ及びイタリーは同じやうな物持たぬ國、不満足の國、ヴェルサイユ會議以來ドイツは神妙に其賠償金を拂ふ氣になり、自國の工業をも復興せしめる、斯う云ふやうな正直な考へを持ち、正道に即した行き方をも實際に一度はやつて見ました。暫くは工業復興の狀況も見えて居つた、然るに米國の恐慌以來千九百二十九年の中頃から即ち昭和四年、五年、六年とかけましては、世界中は大恐慌で、アメリカでは千萬人以上の失業群を生じ、國富んで民餓ゆる奇現象を演じたのみならず、イギリスが困り、フランスが困り、ドイツの如きは貿易額百五十億マークに近きものから僅か三十何億マークと云ふところまでガタ落ちした、金の貸手が無くなり、工業原料の輸入が出来なくなつた、そこで工場が閉鎖されると之に依つて生活して居つた何百萬と云ふ者が飢ゑる、食へない、さう云ふ狀況はイギリスに於ても同じく來た、尤も物持てる國と物持たざる國の飢ゑ方に於て違ふが、そこで各國共難儀だから何とか話し合ひをして見やうではないかといふので起つたのが此一九三三年のロンドン國際經濟會議であつたと私は記憶して居ります。

三十三年は丁度昭和八年である、イギリスの失業者が無茶苦茶に殖へて來て、それから日本では松岡洋右氏がジュネーヴに行つて、わが國は滿洲事變のため國際聯盟脱退を餘儀なくした年で、日本帝國政府は又同時に公式に國外に宣言した年である。それから此經濟會議に出かけた人々は各國の大官専門家、わが國からは前の一九二七年(ジュネーヴでの聯盟主催經濟會議)の時に行かれた關係からでせう石井菊次郎氏が出かけられて居ります。所で物持てる國と物持たざる國、満足せる國と不満足なる國との間に、今迄は只持てる國は持たざる國に對して、現状維持々々々々で以て突張つて來て居る。これは國內の事情に徴しましても同じことである、人類世界の共通事項のやうに思はれます、横道にそれますが町内でも物を持たない住民は盛んに救民寄附勧誘とか缺食兒援

助とかいつて歩き廻はるが、物持てる者は手を懐ろにして之に應じない、値切るだけ値切り倒して已むを得ず少しばかり出すと云ふことになつて居る。國際的關係に於きましても、物持てる國は現狀維持を欲し、持たざる國は之に對して現狀打破を稱へて來たんだが、是が昨年以來、思想の潮流が實際政治家によつて頓みに變つて來た。持つて居る方の國の人から從來の考へ方を改めて分配方を検討して見ようと云ふ意見が出て來た。

私はかういふ新思潮の流が指導原理若くは國際經濟の指導精神となつて、世界的に育つことを昨年來切に希望してゐる。領土せまく天然資源の殆んど皆無な日本としては特に願望すべき傾向だと思ふからであります。しかし望んで居るがどうも此良い種子と云ふものは雜草に負けて育ち難いものである。がこゝに注意すべきはこの種子が貧乏國より生ぜずして、物持てる國より出て來たと云ふこと、即ち米のハウス大佐や英のロイド・ジョージ氏が思切つて領土資源の再分配を行はなければ世界平和は保てないとの提唱コレが非常に面白いと思つて居る。國際的にこんな風が吹くと、その風の吹き廻はしでチヨコ〜我が國內でも物持てる人々と云へば、三井とか三菱とかいふ所でせうが、さう云ふ所にも亦同じやうな微風が吹き初めたことです、それから大橋新太郎さん、郷誠之助さん、藤原銀次郎さんとか云ふやうな人が少し考へて來た。池田成彬さんと云ふやうな人が現狀維持についてコロツト考へ方を變へて來た。——或は考へ直さざるを餘儀なくさせられたのかも知れませぬ。それから又制度組織の上からは、是は若いからでせうが、近衛公爵の如きも大分考へたやうです、外から打破が來ないうちに、こつちから改めて見ようと云ふので、貴族院議長が貴族院改革論をすると云ふやうな從來は曾てなかつた現象が此昭和十一年、千九百三十六年になつてポツリ〜と現はれ、世界的一般にも領土や資源の再分配論が現はれて來たことは非常に薄氣味の悪いうちにも、すが〜しい薫風のやうな清涼を覺えるのであります。雜草の中に何か綺麗な花の蕾が、所々咲いて來たやうな氣もするのです、是が雜草に依つて其生育が止まるか、或は雜草

の上にはが抜け出て、綺麗な花が咲くか、花が咲いても其儘散つて了ふか、或は又完全なる實を結ぶ所まで發達するか、是が今後皆さんと共に眺むべき問題であります。

私は毎日火見櫓の上に揚つて、四方八方を見てゐる消防手のやうな職務を致してゐるもので、世界各地のインフォーメーションを得て、どこ其處にどう云ふ事が發生しかけたと云ふことを、若干はやく知り得る。さうして時に臨んで警鐘をぢやん／＼と叩くのが仕事であるが、此頃では無茶に叩くと嫌がられるから只火見櫓の上に揚つて極めて遠方のところを見て居りますが、領土資源の國際的現狀維持を打破し、再分配しやうと云ふやうな傾向に實際政治家がなつて來たことは何處から考へても歓迎すべき事である。所が是は指導原理もしくは指導精神の或る兆しであつて、之を實現せしむる爲めには、どうしても有力なる指導人物と云ふものが出て來なければならぬ、其ことを申します。

翻つて千九百二十七年だから昭和二年のことですか、國際聯盟にマダ日本が入つて居る頃、國際聯盟の主催で、ジュネーヴで國際經濟會議を開いた時に、各國の代表が出かけて行つて、日本からは石井さんが全權で志立鐵次郎さんが副で、其外五六人出かけて行つた、其時の決議を見ても、それから各國の政府代表及び専門家がしてゐる演説をすつかり讀んで見ても、皆口を揃へて通商の自由を説き、資源の國際的共通、自由交換を叫び、關稅の協定低下を唱へ、通貨の安定を希望し、各國發券銀行間の協調案等々、各國共に共存共榮を熱望するの共通的精神においては意見の一致を見たのであるが、さて實行案となると、勇氣あり德望ある偉大な指導人物と云ふものが其時も出てゐない。機も未だ熟してゐなかつたからでもあらう、千九百二十七年の國際會議の時にはさう云ふやうな決議を皆實行に移さうと云つて、案が財政的にも出來、經濟的にも出來るは出來たが骨折損の草臥儲けであつた、それから(一)海運に關することも出來、(二)通商平衡待遇の原則、(三)國際資源の分配に關する

ことも案は出て居たにも拘らず、タツタ一人イギリスの代表レーイトン氏は之に留保を演説して、其案は案として記録するにとゞめ之を實行することを有耶無耶に致して居ります。越えて三年、四年、五年、昭和六年頃には、前に述べた恐慌來でアメリカも困つたがイギリスも大困りとなり、それから取敢へず通貨安定、爲替安定、之を先づ關稅問題と一緒に取扱つて、速急に今迄行つて居るものゝ一割でもよい、關稅を先づ下げて見よう、或は下げることが出来なければホリデイをやらふ、是も亦出席代表間の意見だけは一致したのであります、只主義だけに於てロシヤから出かけて行つた代表者のリトヴィーノフ氏は、諸君は悉く世界恐慌と大騒ぎをして居られまするけれども、其今日の大恐慌の責任は諸君にして我が國だけは除外例なりと言つて演説して居ります、それより以外の人は皆千九百三十三年ロンドンでの會議の時には、取敢へず一時的にも通貨の安定と關稅の引下げと、中央發券銀行の國際的協力、之れだけは決議事項としようと言ふことを云つたんだが、矢張り實行が出来なかつた。否、實行が出来ないのみならず其後この三十四年、五年、六年となりましては關稅の引下げどころか、アメリカを始め此會議の主催者である所のイギリス政府當局は關稅をグン／＼引上げる、割當制度は實行する、全然鎖國状態に逆轉した。而して今度は自分の所屬領地にまで干渉して、日本とオーストラリヤの間の貿易關係の如きは無茶苦茶にして了つた。……イギリス政府近頃の態度は殆んど狂氣の沙汰である。日濠間に通商協約を作らうといふことは一昨年から昨年にかけて、むかうからはレーサム外相がわざ／＼日本を訪れ、又昨年こちらからは出淵大使が向ふに行かれて、其協約も都合により出来るとのみ信じられて居りましたところ、此本年而かも本月になつて突然日本からの人絹布および絹布、生糸、絹織物等に關し、法外千萬な高率關稅、入國拒絶の禁止的稅率に引上げて仕舞つた。……尤も是は商賣人から申しますると、此日本がオーストラリヤから買ひまする品物と云ふものは主として羊毛である、此羊毛が一億七千萬圓に近いものである、其外は小麥の三千萬圓ばかりのも

のであります、それは昨年の十月から本年三月頃にかけて、此シーズンで日本に船積されて大部分は入つて来て居り、もうオースタラリヤの方では賣るシーズンでない、其の期は濟んで居る、それと議會でギヤア／＼云ふのは五月蠅いからと云ふので議會の最終日にポンと此法令を出した。向ふの商賣人、日本の商賣人、日本の工業家と云ふものも、是は一年間は腕を拱いでヂツトして居つて宜しい、所が騒ぐ、今日も大分騒いで居られる方もあるやうであります、是は何故騒ぐかと云ふと、矢張り是は國家としては體面の問題でないかと思ふ。體面を踏躪られたと云ふことゝ、それからイギリスのために日濠兩邦の國民が利益を無視され、壓迫を感じしめられる。コレが今日のごときすべてにおいて發達を來せる躍進日本の國民をして憤慨せしめる所以だと信ずる。濠洲で産する羊毛の輸出分量が今では昨年の統計を見ますると、日本が最大の第一位になつて居るんだから、濠洲農民からは日本に賣りたい。このちはそれで面目を度外すればたゞ採算上から安ければ買うてもよいんだが、これを濠洲以外に需めてあれば買はんでもよい。而して便利な一ヶ所では、むつかしいが澤山な所から買集めれば買集められないこともない。南阿、南米、一寸暇取るが滿洲に於ても粗惡なる所の原料ならば有る。更に考ふべきは、諸君は羅紗の洋服を着て居られるだらふが、羅紗の洋服を着なくとも宜しい、代用品で間に合せればよい、絹糸の服を着ればよい、絹の着物が高く付くならば木綿の着物を着て居ればよい、木綿でも面倒臭ければ近頃は人造絹布と云ふものがある。實際の原價を聞いて見ると綿布より安く出来る。それから毛織物と云ふものゝ中に交入する分量も、人絹で澤山だ。ステープル・ファイバー（人造羊毛）をドイツやイタリーではどし／＼造つて居ります。近頃日本でも獨逸品以上の精品が出来る。産額も増しつゝある。それから日本人は約二千五百年の間、別に毛織物が無ければ無いでも濟んだものであり、而も追々は他の所より、また自國內で代用品の補給も出来るから方法はいくらでもありませう。

所で問題は斯うです、之を膺懲する、若くは報復手段を講ずるのも面白い、體面維持の問題として、一手段一方法として決して悪いことではありませぬが、私の考へは、無くてならぬものとすれば、今後に於ける毛織物と云ふものはどうしても必要だとするなれば、矢張り買ふにも正當値の原料、こちらから行く所の品物も正當値で賣ることにしなければ永久策でない。こちらからオーストラリヤに行くものは人造絹糸の織物と綿布、絹物ぐらゐのものであります、綿布及人絹織物である、さう云ふ物が向ふの人の話を聞くと、餘り日本の品物が安過ぎると云つて居る。だからもう少し高く賣つた方が好く、英本國商人もこれを欲する。さうして今人絹の産額全體を見ますと日本が第二位である、一寸アメリカより低い、第三位のイギリスに比較すると非常な差で日本の人絹工場は凄じき發達振りをしてゐる。それだからイギリスとの競争相手、イギリスの大敵であります、それから綿布の濠洲に入るものは、袋用の粗布で、イギリスの高級品との競争は先づない、しかし安價過ぎるので英國人の氣に食はない所である。商賣人も氣に食はない、政治家も氣に食はないと云つて居りますから、是は矢張り先き長くぢり／＼行く主義で正當な値の商賣がよいぢやないかと思ふ。日本人は短氣だから一面で大いに損をしてゐる。日本が聯盟を脱退した時に、向ふの聯盟の事務局に日本から行つて居つた政治部長をして居られた杉村陽太郎氏が、歸つて來られた時に聞いた話ですが、イギリスで丁度日本の水交社見たいな所で、昭和八年の新年宴會か何かあつた時のこと、兎に角新年宴會のテーブルに御馳走が出て、斯う云ふやうな所に大きなピラで、イギリス國民は皆國産品を愛用せよ、イギリス製品のみを以て生活の資料とせよと云ふやうなピラが幾つも貼られて居る、所が其新年宴會の海軍將校の幹事が、其の場で立つて云ふのには、今茲に有る品物は、此水呑もそれからテーブルクロースも、ナイフもフォークも、乃至飾つてある旗も皆日本から來た品物だ。日本品を排斥したら諸君が會費をもう三倍出して呉れなければ此新年宴會は出來ないと報告したさうです。それだから昭和八年の正月頃

は其位日本の品物はイギリスに入つて居る。此一事を以ても分かるが如く、商人に云はせますと只値が安ければよい、どこにも賣れる、品物も良い、それだから構はぬと云ふけれども、それが果してジャスト・プライスであるかどうか。商人からいへば利益でも、永續しなれば一般國民の利益になつてゐるかどうか。矢張り適當な正值で賣つた方が自分の爲めにもよし、向ふの爲めにもよい。徒らに國際競争と特殊國を振舞はして生産勞力の安きを誇りとして無暗に安價品を供給するのは永續き致しませぬ。日本における勞働界の事情も、いつまでも今日の特殊事情では行けまいと思はれます。何れの國に於ても其國運の隆盛を期すると云ふことは一時的にあらずして、出来るならば永久の隆盛を希望するのである。永久の隆盛を希望するには國際的の相互信頼、國際的の相互利益、之を無視することはお互さまに國運隆昌の爲めにいけないと私は考へて居る。是は極端な例だけを申しましたから、商人はなアに一時的で宜しい、後は此頃の時節だとうなるか分らぬ、三年先きどころでない、半年先きが分らぬでないかと云ふ人もあります。是は一年先きが分らぬから儲けるときにウンと大儲けをして後は仕舞うた屋になつて了うてよいと云ふのは其人個人的のことである。國利といふ點からナショナル・インテレストと云ふ所から考へますと、成金の百人千人は出來ても風俗を紊るの害毒位が國民に與へられるだけで、國民全體は大難儀となりはせぬか。それは兎も角、現下の世界情勢では國際的相互の信頼と云ふものが缺けて仕舞つて居る。國際的相互信頼と云ふものなくして經濟會議を最近世界中の代表者が何百人と集まつて二回ほどやつて見たが、其効果は一つもありません。無効であつた。之を私の最初の言葉で申せば指導原理、指導精神と云ふものだけは、お學者や専門家が集まつて協議すると出来るが、これを實現するには指導する人物なくしては、百日の會議屁一つにも値せぬ。

これよりいよ／＼本論に這入るのでありますが、世界の領土資源の再分配を眞剣に考慮しなければ國際平和は

保たれぬ、第二の世界戦争が必ず起る、實行案として各國經濟會議を開かうぢやないか、との提唱を『物持てる國の人』、『充足せる國の政治家』から言い始めたこと、これが頗る結構な新發芽である。われ／＼はこの雜草中から芽を吹いた正義の新提唱に花を咲かせ、實を結ばせたい。……………その第一聲がアメリカのハウス大佐からである。彼れは先年歐亂後のヴェルサイユ會議に臨んで時の大統領ウイルソンの懐刀として平和條約草案の起稿に参加し、盛名を博した有名な政治家的の才幹を有する偉人物なのである。此ハウス大佐が昨年秋、今世界を見渡して、政界不安、財界不安、社會不安、再び戰亂が勃發しさうだが、要するに歐洲ではドイツやイタリヤが領土資源の恵まれざる現状において、どこまでも不満足だとの心意の爆發だ、それから東洋の方を見れば日本が同じく不満足である、だから極東にも黒雲が舞ひ上がつて居る、歐羅巴では一寸觸れたならば直ぐに火を發しさうな状態になつてきた、此の一觸即發と云ふやうな状態が、西にも起り東にも起り、さうしていはゆる先進國間に互ひに國際的信頼がない、抛つて置けば再び戰爭が起る、兎に角危ぶない。而して其危險なる状態の原因は何かと云へば、物持てる國と物持たざる國と、充足せる國と不満足なる國との争ひである、だから物持てる國の方から、即ち米國、イギリス、フランス、ロシア等世界の全面積のエリアから申しまして、大變な分量を、これらの國々だけで所有してゐる。……………英國のごとき總面積の二十七パーセント、露西亞は十六パーセント、佛國の版圖は九パーセント、米國は七パーセント……………それに對してイタリヤは二パーセント、獨逸のごとき〇・三パーセント、日本が僅かに〇・五パーセント……………こんな割合になつてゐる。それに住んで居る一平方キロ當り人口の密度はイギリスの如き(英本國は別として)全版圖平均十四人しか住んでゐない、フランスの如き本國で七十六人の割、全版圖では七人しか住んでゐない、サ聯邦のごとき僅に八人。これらに對して日本の如きは資源もなければ、他に植民地とて少なく一平方キロの間に百三十四人の割で住んで居る、それからイタリーの如き

も百三十五人、日本より一人多い割合になつて居る、それからドイツの如き歐亂の結果全部植民地を喪失したので百四十人の割で住んで居り、且つ國內に資源を持たないのである。だから斯んな桁違ひも桁違ひ、話しにならぬ桁違ひの充足國と不満足國とを此儘にして現状維持といふことで放任して置いたならば、遂に戦争はどうしても免れまい。と斯う云ふのがハウス氏の根本概念である。それならどうしたらよいかと云へば、此領土ならびに資源をもう一遍ご破算にし、麻雀でもやるやうに、バラ／＼となして再び公平に之を配け直して見ようぢやないかと云ふのであります、さうすれば又資源も東西南北に適當な分配方法が併せて考究されやう。世界平和の基礎が確立するであらう云々……コレガ眞面目なる政治家の提議であつた爲に、各方面に衝動を與へました。英佛等の政治家も大分に反省させられた。

それから之に誘はれて、本年の二月五日、イギリスの下院で労働黨の前首領のランズベリー君が、國際不安を除き世界平和を持來すためには、被壓迫民族に對する帝國主義的乃至白哲人の優越的支配の否定を要すると前提して、天然資源を欲する國々に十分満足の行くやう再吟味を目的とする國際經濟會議を、イギリスが主催者となつて世界中の物持たぬ國にも物持てる國にも兩方に呼びかけて評議して見やうぢやないかと云ふ建議案を出して居る。所が保守黨の連中は多數決を以て、二百二十八票、それから賛成者が百三十七票で本案は否決されては居りますが、是は今申しましたアメリカのハウス大佐の意見から漸次に導かれて來たものだと私は推測する。アメリカから太平洋を渡つてロンドンに此觀念が移つたものだと思ふ。尙ほ之に對して自由黨のロイド・ジョージ氏が此案に賛成演説して居る。曰く「……今日の儘に歐羅巴及び極東の不満足國を放つて置いたならば、第二の世界戦争を惹起することは必然のことなり、故に此現情を何とかして打破しなければならぬが、其現情打破の方法としては、委任統治區域の再分配を計ることの必要もあるが、日本とロシアの兩國が現在世界に於て、最も強大な

る軍備を整へつゝある事實は、現に之を銘記しなければならぬ、尙ほ世界の委任統治地再分配に關しては、自分はイギリス政府は速かに各國政府に對して一大國際經濟會議を招集し、各國各自の立場乃至各國の希望を虚心坦懐に開陳せしめて協議をすると云ふことが最も必要だと認める……』といふ熱意に富んだ演説を致して居ります。それから最近では現在のイギリス外務大臣イーデン氏が、また此問題を取扱つて見やうと云ふ氣を起して來て、氏の意見では國際經濟會議は矢張りジュネーヴで開くが善いとて本問題を検討したい旨を宣明してゐる。だから今迄のやうな雲を攔むやうな空想に非らず、理想談に非らず、現實の問題として大英國の外務大臣が國際資源分配再吟味の事に就て、列國に呼びかけて、會議を開いて見やうと云ふ氣になつて參りました。正論は根氣強く唱へてゐると、いつしか是が現實になつて來るものであると云ふことが分かる。屁理窟は、いけませんぬが、正義だと理想論が實現するやうになる。お學者の議論が理想を語るものであつても、長く唱へて居ると云ふと、斯う云ふ具合に大きなものが引掛つてくる。昨年ハウスが引掛かり、本年はロイド・ジョージが引掛かり、ランズベリーが引掛かり、最近ではイーデンが引掛つて來てゐる。かく實際の政治家がこんな氣になれば『資源再分配の萌芽』は生育すると私は見て居ります。

こゝで私は話をモーペン前に戻します。昨年秋、同じく京都大學の會合での私のはなしの一節に、南阿のスマツツ將軍が一昨年の冬イギリスのロンドン外交調査會の席上に於ける演説の大意を述べ、大英帝國の外交に關する話をしたことを記憶する。而して今考へると此スマツツ氏の一昨年外交調査會の席上演説したことが、ハウスやロイド・ジョージやイーデンやランズベリー氏等に此概念を與へたものだと思はれる。スマツツ氏は大英帝國の外交政策に對して忠告を與へて居る、其演説の大意を申し上げますと、彼は指導原理、指導精神を與へて居る。世界不安の素、ヨーロッパ危機といはれる直接の問題としてはドイツとフランスの問題である。それから東洋に

於ては日本の問題であると、斯う露骨に云つて居る。之に對する大英帝國の方針、大英帝國の指導原理と云ふものを從來と變へなければならぬと云ふことを云つて居る。それを説明する前に當つて、彼れは現在のごとく東西南北共に紛糾せしめるに至りたる原因について斯う云つて居る。一體斯んな一觸即發の状態まで持つて來たと云ふのは何故かと云ふと、煎じつめればフィア・コンプレツキス(恐怖感)インフェリオリチー・コンプレツキス(劣等感)の此二つに歸する。この二者を除去するに非ざれば平和は來らずといふに在る。フランスが徒らにドイツを怖がるから、それから歐羅巴の各國が寄つてたかつてドイツをして餘りに劣等扱ひするから不可なのだ。此二つを緩和しなければいけない。之を緩和することをもつて大英帝國の外交方針の基礎とすべきである。日本に對しても亦然かり、日本と云ふ國を劣等民族視するからいけない。是はスマツツ氏だから言へたと思ふ。純粹のイギリスの人では中々言へない。曾てはイギリス人を相手にして戰つた人なんですから、偉らい所がある。黒ン坊と白ン坊と黄ン坊と世界全體を區別して置いて、白を最上とし、それから黄や黒を劣等扱ひにすることは學理上どこからも出てこぬ。人類學上からも醫學上からも、どこから考へても色に上下の區別があるわけのものではない。お學者の方から云ふと、どうしてもさう云ふやうな差別はない筈である。所が現實には有る。現實は大變な差別待遇をしてゐる。而して之を劣等視して了つて居る。さうして只皮膚の色の白きを以て優越として、皮膚の色の黄、又は黒色なるが故に劣等とすと云ふ彼等の觀念を打破する必要がある。一等國民を劣等國民扱ひにするは極東に於て最も酷である。それから歐羅巴に於てドイツと云ふ國は、兎に角千九百十四年迄は、押しも押されもしない第一等國であつた、それを寄つてたかつて聯合國で虐めて、軍備もならない、飛行機のエンヂンもいけない、金も貸してやらぬ、資源も與へぬ、船も取上げる。スマツツ將軍は、曰く『ドイツをさんぐに劣等國あしらひすることを大概にして廢めろ』。それから極東に於ける日本の勃興のことも考へる、然らば極東の黒雲もや

がて散ずるであらふし、それから西歐羅巴に於ける不安状態も緩和するであらう。さうすれば第二世界戦争を勃發すると云ふ憂いも自然に消滅せしむることが出来はしないか。それから現機構の國際聯盟は役に立たぬ。大きすぎる。ロカルノ條約の如く少數の地方々々でグループ相互間の援助條約が有効だ。局限せる其所ら近邊の直接關係ある四五國づゝが、或るグループづゝを造つて、さうして國際聯盟と云ふやうなものは、そのうへにグループから代表總會とすべしだと説き、直接密接な關係を有つて居る國々が、おのゝ各地方々々に對等て話の出来るやうな會合をしばゝ催し、四角張つた話は後廻はしとして安樂椅子か何かに腰を掛けて、パイプを銜へて、マア一杯飲まふぢやないかと云ふやうな具合にして、其間をユーモアで結んで會談をつゞけることだ。これ以外に現在の危局を収める方法はない……と言つてゐる。此スマッツ氏の一昨年冬の演説が大英帝國の外交方針に影響して、その後ドイツに對するイギリスの對策は段々緩和して來たことを見るのである。所が之をよいことに思つて、ドイツはこの三月七日、ヒットラー總統は、また無茶です、ロカルノ條約も糞もあつたものでない、ヴェルサイユ條約の制裁も何も全然無視するやうになつた。條約廢棄を宣言して、直ちにラインの非武装地帯に兵隊を進めて占領してしまつた。尤もフランスとロシアが相互援助條約を一月に結んだから、ロカルノ條約に違反すると云ふ口實がありましたからでもある。之に就てフランスが地團駄踏んだが、又聯盟に訴へてもイギリスに泣きついて如何ともすべからざる次第で、フランスは只齒を食縛つて之を如何ともすることが出来ない。この状態は、イギリスの態度が昨年來、轉向してゐるからである。而してそれはスマッツ將軍の説の表現だと私は見てゐる。ドイツを聯合國が餘りに劣等視し、總てのものを制限し、金も貸さないし、原料も供給して呉れないし、そして償金は帳消しにしない。斯う云ふことになれば、人間と云ふものは癩に觸はるものである。それで軍備と云ふやうな事でも矢張り或る程度迄は前に一等國であつたのだからドイツの體面を保つだけのものを

拵へさせるがよい、といふ氣に英國ではなつて來た。さうしてやれば決して直ちにそれを振廻はすものでない。氣分がズツと緩和してくるからである。軍艦にしてもが矢張り體面上イギリスの百に對して三十五ぐらゐの割でなら、決して是で以て戰爭を仕掛けるものでない。斯う云ふやうな政策にイギリスが變つて來たことはスマッツ將軍の與へた指導精神であると思はれます。

さうすると云ふと現在の外務大臣イーデンも偉らうと思ふが、然らば他の國々に近頃の指導精神または指導原理がどうなつてゐるか。ドイツではストレーゼマン氏の死んだのちは、正義の有徳政治家はなくなり、ヒットラーが跋扈して、今日では指導精神も指導人物もタツタ一人で引受けて仕舞つて、是からどつちにどうドイツを引張つて行くか知りませぬ。それからイタリーを率ゐて居る指導精神、及び指導人物これまた一人で兼てゐるムツソリーニは更に偉大なるアバレン坊だから、この後いかなる事を歐洲の天地に捲起すか判りませぬ。

ところで現今の世界的不安情勢に處して、國際經濟を基本とする對外方策に關して指導原理をいづれに求むべきや。不安なる國際情勢のもと國內に天然資源の殆んど皆無である日本の採るべき貿易政策は如何。——日本品は近年著しく海外に進出したが、今や世界各地から排斥されんとしてゐる。——何れの方面から考へても、原料を他國に求めて工産品の輸出を企て、増加人口を賄ふの外途なき國情では、資源の國際的再分配會議の實現を希望せざるを得ぬ、それから私は資源だけで宜いと思ふ。領土の再分配は、その後でよいと思ふ。領土の再分配問題は纏り難いのみならず、實は爾く重要でないと思ふことは、例へばゴムの一例でも分ります、シンガポールを中心としてゴムのストックが大變なものになつて値がガタ落ちした時には自分が其産地を持つて居ると馬鹿を見る、原料を安く買ひ取る方がよいぢやないかと思ふ。自分が栽培地を澤山に持つて居ると云ふと却つて困るんぢやないかと思へる。私は有難いのは所有權に非らずして使用權でないかと思つて居る。此頃のやうな御時世にな

ると所有權と云ふものはそんなに有難いものでありませぬ、それだから澤山な土地や物の所有權を分けて貰ふよりも十二分に何時たりとも使用することの自由に出来る方が宜しいではないか。それには此日本と云ふ國は丁度よい所に位置してゐる。支那大陸が近く對岸にあつて、斯う云ふ具合に島國になつて居つて、すつと南の方にジヤバ、スマトラ、ボルネオ、セレベス、ニューギニア等々、がある。それから飛石づたいにオーストラリヤ、ニュージールランドがある。これらの所に産する鑛産原料、農産原料を安價に豊富に取り寄せ使用するの工作をめぐらした方が善いと思ふ。陸上交通の千キロに對する運賃は海上ではその十倍までよいから一萬キロの遠方に産するもので引合ふ。今コンバスの中心を大阪に置いて、之を十萬キロの半徑で廻はしますと右に述べたところが大概這入ります。すると石油があるし、鐵礦があるし、羊毛もあるし、牛肉もあるし、小麥もあり餘るほどある。

即ちこれらの島々の所屬本國へよりも日本へ運ぶ方が距離のうへから、すつと良いのである。わが國はこの點からいつて國內に資源なくとも極めて好い地位に在るのである。平和的に國民の相互信頼さへ進めてゆくことが出来れば共存共榮の一致點が見出され、我が國に天然資源が無いと云うても少しも心配する必要はないやうである。そのために海運業の發達を怠つてならぬことは、いふまでもありません。

つぎに日本には天然資源がない所に持つて來て盛んに子供が殖える。最近の統計に依ると百萬に近い數が一年に殖える、一年に百萬に近いものが殖えると一日に二千五百人から殖へつゝある勘定である。さうしてその中で外國に幾干移住するかと云ふと、外國には餘り行かない、よく出る時で二萬臺である。百分ノ二以下のものである。此頃滿洲建國前と較べて、建國後は二十萬人ばかり行つて居りますから合せて四十萬人位になつて居ります。それに兵隊さんを加へて全體で約五十萬ばかり行つて居りませう。それから朝鮮に四十萬乃至五十萬、それから臺灣は四十年になるが、依然として日本人はあまり行かない、二十萬と三十萬の間でせう。只北の方の樺太

の方に、是は妙な關係で近年は二十五萬からの人口になつて居るやうです。其他は知れたものである。所が百萬に近きものが年々歳々殖へて、國內に資源がないとすれば、どうしても、原料を他國に需めて工業を起し工産品を餘所の國に輸出して、即ち輸出貿易によつて國民の衣食住を出来るやうにする以外誰が考へても日本の經濟國策の樹て様はない。然らば茲で考へねばならぬ事は、貿易上の競争の仕方である。私は恆久策として經濟戰だの貿易戰だのと云ふ語を聞くだに厭やな氣がする。商賣や貿易だのいふ事は、その結果が雙方好いやうにすべきをもつて上策とする。貿易は雙方の爲でなくては永つゞき致しませぬ。だから『戰』であつては駄目である。戰ひと云ふものは喧嘩の大なるもので昔から勝つた方はよいが、敗けた方は悪い、戰ひと云ふものは勝つか敗けるかしなければ勝負は付かないが、近頃の戰ひに於ては勝つた方も損をし、敗けた方は、尙ほ更ひどい損害を蒙ることになつて居る。歐羅巴戰爭始まつて既に二十年以上になりましたが、アメリカが一時好景氣で有頂天であつたが、今日は千九百二十九年恐慌襲來以來、工場は百分の一にも減さなければならぬ状態になり、千萬人と云ふ失業者が出来て、シカゴの如き大都會でさへ一時は小學校を罷めなければならぬ状態になり、千萬人と云ふ失業者が出来た。そのほか歐羅巴の直接戰爭をした國々は、勝者も敗者も、今に至りて大難義を致してゐます。にも拘らず國際的の相互信賴は打碎かれ、今日おのゝ鎖國的状态で關稅の引上競争、排他行爲の連發で如何ともしがたき有様となつた。尤もこれらを矯正すべき指導方策は各國の學者によりて攻究され一致點を見出し得るが、指導人物の缺乏せること、即ち大政治家の出現せざること、蓋し今日ほど甚しきはないと思はれます。しかるに話を一度最初に戻しまして、近頃、歐米の學者でなくて、實際政治家が漸く自國本位の我利々々主義から覺醒しまして、帝國主義の訂正、領土資源の再分配を眞面目に論議し始め、それを目標に國際經濟會議を近く開催して、『物持てる』國も『物持たぬ』國も悉く一堂に會して胸襟を開いて再分配を議して見やうぢやないかとの提唱が具現してきましましたことは非常に喜ばしく、我國としては特に其の促進を希望すべき福音だと思ふのであります。御清聽を煩はしましたことを感謝して終りと致します。(拍手)